

平成26年6月7日開催 県政タウンミーティング 寄せられたご意見等への対応状況について

1 開催概要

- ・開催日 平成26年6月7日（土）開催時間 午後1時50分から3時まで
- ・テーマ 知事と語る「信州の山 新世紀元年」
- ・会場 富士見パノラマリゾート ゴンドラ山頂駅レストラン
- ・参加者 100人

2 参加者のご意見の概要と、ご意見に対する対応状況

林業従事者と県職員の人的な交流について

（ご意見の概要）

我々林業関係者は、山に入っていないながら地域の山を知らないこともあります。県職員は山に関する知識を持っているので、県職員を人材として生かすという意味で、もっと人的な交流をしながら指導をしてもらえればと思っています。

人材育成という課題のひとつとしても提案させていただきます。

（知事の発言要旨）

農業については、農業大学校があるが、これまではどちらかというと技術的な側面、つまり栽培技術の習得に力を入れていました。しかし、これからはマーケティングを含めた全体の農業経営をできる人材を育てなければいけないと考え、経営マインドを養う授業を取り入れた実践経営者コースというものを始めました。

林業においては、林業大学校のあり方やフォレストコンダクターのあり方について、どういう方向で充実していけばよいか、ご意見があれば教えていただきたいと思います。

行政がやらなければいけないことは何かというと、一つは技術的な点であり、技術開発のような研究開発のところでは、もう一つは人材育成だと思っています。そこをしっかりと考えると同時に、県職員も、なるべく企業の皆さんと一緒に行動できるようにしていきたいと思っています。

（ご意見に対する対応状況）

県では、人材育成や林業事業体の経営基盤の強化を、（一財）長野県林業労働財団と連携しながら支援しております。

また、平成25年度からは、地域林業をけん引する人材として、信州フォレストコンダクターを育成しており、コンダクターの皆様も交え、地域の課題解決に取り組んでおります。

とりわけ、地域の実情に即した技術の普及や指導を行うとともに、様々な相談にも対応する県職員として、高度な専門知識を持った林業普及指導員を現地機関に52名、また林業専門技術員を本庁に5名、林業総合センターに4名配置しており、森林・林業及び中山間地域が直面する様々な課題へ対応を図っております。

【担当課：林務部信州の木活用課】

ジビエのブランド化について

（ご意見の概要）

長野県は広葉樹林が多く、そこで育っている野生鳥獣の肉は、針葉樹林で育ったそれとは味が違います。そのように、「長野県はこういう山が広がっているからこのような味のジビエが食べられるのだ」というところが、長野県のブランドとなるのではないのでしょうか。

（知事の発言要旨）

現在、信州ジビエ研究会を作って取り組んでいます。猟友会とも連携しつつ、川上から川下まで、最後は調理する方まで一緒になって研究会を作っているところが特徴だと思っています。

まだまだ第一歩のところですが、シカ肉認証制度をスタートさせました。市場を拡大していくときには、やはり安心・安全のところが大事なので、行政としてしっかりと関わる中で広げていきたいと考えています。

（ご意見に対する対応状況）

山の恵みとしてジビエの需要拡大を図っていくことは大切だと考えています。ジビエをブランド化していくには、安全・安心であることが重要と考え「信州ジビエ衛生管理ガイドライン・衛生マニュアル」の策定や、信州産シカ肉認証制度の制定等の取組を行っております。

今後、安全・安心な信州産シカ肉を山の恵みとして普及していきたいと考えています。

平成27年度予算案では、ブランド力を強化するため、「味」に影響を及ぼす成分の分析を行い、分析結果を踏まえて、シカ肉の様々な部位を活用した商品開発への支援を行っていくこととしております。

【担当課：林務部森林づくり推進課鳥獣対策・ジビエ振興室】

日本の木材の効果的な発信について

（ご意見の概要）

この会場を見ていて格好良いと思っていたのですが、梁や柱などに集成材が使われています。（※この県政タウンミーティングの会場は、梁や窓枠など、人の目に見える部分にスギの集成材を使用していました。）こういう技術がどんどん発展してきているので、コンクリート打ちっ放しの建物より格好良いと思います。こういう日本の木を使えば、格好良い建物が建つのだということをもっと発信していけばいいと思います。外材に押されていると引っ込んでしまうのではなく、良いところがあるということアピールする場面を作っていけば、消費者も認識し、意識が変わっていくのではないのでしょうか。

（ご意見に対する対応状況）

信州の木と住まいの総合対策事業により、木材関連団体と連携しながら、工務店や一般ユーザーを対象に首都圏及び中京圏において県産材製品のPRを実施しています。また、木造公共施設整備事業により、多数の者が利用する公共施設の整備に当たり、県産材による木造化や内装の木質化を支援し、県産材の良さを直接触れて感じていただくよう取組を進めています。

【担当課：林務部信州の木活用課県産材利用推進室】

猟師の育成について

（ご意見の概要）

ハンターが高齢化し、減少していると思います。ハンターを養成していくことも、シカ肉を安く提供するための一つの手法ではないのでしょうか。

（知事の発言要旨）

猟をできる人がどんどん高齢化していることは、一番の課題だと思っています。わな猟の免許を取れる年齢を引き下げて、免許を取れる人を増やしており、裾野を広げていきたいと考えています。

恵みのあるところですので、猟を楽しむ文化をもっときちんと作っていく必要があると思

ています。

(ご意見に対する対応状況)

狩猟者の高齢化が進む中、若年世代の狩猟への参入促進による狩猟者確保は喫緊の課題と認識しており、県では平成26年度、「長野県ハンター養成学校」を開校し、若手ハンターの育成を図るための取組を行いました。

ハンター養成学校では5回の狩猟セミナー開催のほか、狩猟免許や銃の所持許可に必要な講習会への参加等を予定しており、先ごろ入校生を募集した結果、入校生70名のうち、20～40代の若手60名にご入校いただきました。

平成27年度予算案におきましても、引き続き実施していくこととしております。

【担当課：林務部森林づくり推進課鳥獣対策・ジビエ振興室】

ジビエの普及方策について

(ご意見の概要)

例えば、NPO法人などを立ち上げ、全国から1人1口1万円などで資金を集め、特別なレシピを作り、肉もそれで調理しやすいように提供するなどしてはどうでしょうか。

(知事の発言要旨)

協力者を全国から募るということも、確かに必要だろうと思います。

(ご意見に対する対応状況)

ジビエの需要拡大を図るには、レシピや肉の適切な処理は重要と考えています。

このため県では、ジビエに関わる様々な関係者とともに信州ジビエ研究会を設立し、シカ肉を適切に調理し、美味しい料理を提供できる「信州ジビエマイスター」の養成等を進めていきます。

平成27年度予算案では、信州ジビエを使った料理等のコンテストの実施をして、上位入賞者のレシピ等については、広く紹介していくこととしております。

【担当課：林務部森林づくり推進課鳥獣対策・ジビエ振興室】

山に関する情報発信について

(ご意見の概要)

映画「WOOD JOB!」の中では、軽々しく山の中に入っていく人と、それを厳しく諭す山の側の人とを対比させて描いています。この映画を見れば、山というのはそう簡単に受け入れてくれるわけではないのだということをわかってもらえると思いますが、全国民が見るわけではないので、何か周知できるシステムがあれば良いと思います。

(知事の発言要旨)

山の安全対策は、行政としてやらなければいけないことはいろいろありますが、最後はやはり自己責任でないとはいけないと思います。山は、天候はすぐ変わるし、同じ山でも登る時間帯によって全く違う山になってしまうので、なかなか一律には言えないと思います。登る人たちの自覚がすごく大事だということは、身をもって体験しています。

(ご意見に対する対応状況)

山の安全対策、遭難事故防止のための安全登山の啓発については、県と県山岳遭難防止対策協会が連携して取り組んでいます。

○遭難防止については、

- ・ 民間登山情報サイトと連携した注意喚起
- ・ 大都市圏での安全セミナーの開催

- ・ 登山用品店を通じての情報発信

などの取り組みを進めています。

○平成27年度は新たに、遭難割合の高い中高年登山者への啓発活動に取り組みます。

登山者の皆さんには、山の魅力とともに、山の危険や怖さも認識したうえで、安全に楽しんでいただけるように、今後も効果的に情報を発信していきたいと考えています。

【担当課：観光部山岳高原観光課】

山の危険な部分の子どもへの教育について

（ご意見の概要）

私は、地元の自然を知ってもらおうと思い、自然体験活動のクラブをやっています。ここに来る子どもたちは、最初は全く自然のことを知らないが、回を重ねるごとに山や自然を好きになり、高い山だけでなく、里山を含めて好きになっていきます。しかし、そこには危険もあるということも教えていて、その危険に対しては、大人が子どもを全て守ってくれるのではなく、どんな小さな子どもでも、自分の命は自分で守らなければいけないということも伝えていきます。そうすると、小学校高学年になる頃には、自分の命は自分で守れるくらいに成長していきます。全県的にそのようなシステムというか、そういうことができなければいいと思います。

（知事の発言要旨）

今の子どもは自然と切り離されていっているのだから、大人になってから山の安全対策をしっかり学んでもらうことが必要だと思います。それと同時に、子どもの頃から自然というのはこういうものだというのを、皮膚感覚でわかってもらえるような教育が必要だと思います。

（ご意見に対する対応状況）

自然には良さとともに危険もあることから、学校登山に当たっては、各学校で安全に配慮し準備や登山の実施に心がけておりますが、ご指摘のように様々な体験を通して子どもたちに対して指導していくことも肝要と考えております。今後も、より一層、豊かな自然を生かした体験活動を大事にして参りたいと思います。

【担当課：教育委員会事務局教学指導課】

山の良さをすることを目的とした学校登山について

（ご意見の概要）

精神の鍛錬のために山に登るということではなく、「山っていいね」というだけでいいと思います。その目的で学校登山をすれば、山は良いと思ったまま育ち、そして将来、県外に出ていくとすれば、どんなチラシやポスターを作るよりも、広告になると思います。

（知事の発言要旨）

学校登山は、先生たちの負担が大きいということで少しずつ減る傾向もありますが、自然の中で我々が生きているありがたさを改めて考え直し、そうした自然の中での教育がしっかり行われる県にしていきたいと思います。

（ご意見に対する対応状況）

県の第2次長野県教育振興基本計画では、学校登山を、信州の自然や特色を生かした体験学習と位置づけ、「信州教育スタンダード」として、大切にしております。今後とも、長野県の特徴である山を大切に、自然に親しみ、自然から学ぶ体験活動として学校登山を大切にしたいと考えます。

本年度、県教育委員会では、「“信州の山のよさを表現しよう”～『学校登山のすすめ』

ホームページコンテスト～」を実施し、県内中・高校生の学校登山への関心を高めることができました。コンテストの結果は県教育委員会のホームページに掲載し、県内外に信州の山のよさを発信しました。

【担当課：教育委員会事務局教学指導課】

信州登山案内人の学校登山への活用について

（ご意見の概要）

信州登山案内人が学校登山につくこともありますが、学校登山では、ガイドを何人も頼むと生徒の負担が大きくなってしまうということで、1校に1人しか付けられないということもあります。しかし、1人の案内人が50人も60人も見ることはできません。せっかく県として認証している案内人なので、県としてなんとかできないものかと思っています。

（知事の発言要旨）

市町村と相談して考えます。

信州登山案内人がそういう活動をどんどん一緒にやってもらえることが大事だと思っています。それぞれの分野の専門家がしっかり子どもたちをサポートしていくということが大事だと思っているので、宿題としてしっかり受けとめたいと思います。知事としてしっかり考えていきます。

（ご意見に対する対応状況）

信州登山案内人の活用について、平成26年10月に活用状況を調査・確認を実施しました。学校登山を実施した中学校のうち約8割でガイド・案内人が活用されている中で、そのうちの9割の学校でガイドの人数について不足傾向がみられました。このような状況において、信州登山案内人を利用してもらえる方策について引き続き検討していきます。

【担当課：観光部山岳高原観光課】

学校登山の引率教師について

（ご意見の概要）

学校の教師の登山の経験が少なく、特に若手の教師には経験の少ない人が多いです。そういう人は、自分が登るのに必死なので、1クラス30人の子どもを見るということは無理です。それは案内人の仕事です。

教師が楽しんでいる暇がなく、教師が学校登山を楽しまなかったら、生徒たちが楽しめるわけがないと思います。

（知事の発言要旨）

学校の先生はいろいろと教えなければいけないから、どうしても得意不得意があると思います。知事としてしっかり考えていきます。

（ご意見に対する対応状況）

学校登山に当たっては、山に熟知したガイド等をつけて登山を実施したり、観光部所管の長野県山岳総合センターが集団登山引率者のための研修講座を開設したりしているところです。学校では、事前の学習を行い登山を実施しておりますが、ご指摘のとおり、登山の経験の少ない教員もおりますので、教員が山のよさを子どもたちに伝えられるようにするにはどうしたらよいかを考えて参りたいと思います。

【担当課：教育委員会事務局教学指導課】

信州の山の情報等の蓄積について

(ご意見の概要)

全国どこでも山はあるわけだから、信州に聞けば、山のことも林野のことも林業のことも何でもわかる、情報を集積している信州にすればよいと思います。

(知事の発言要旨)

山の話というのは裾野が広く、林業の話もあれば、環境の話もあれば、観光の話もあれば、あるいは救助の話もあります。

そういうものは各部縦割りでなく、もっとトータルで、この山をみんなで守りましょうという組織的な対応をすることを長野県から発信していくというのは大事だと思います。それは行政だけではなくて、民間の人たちも含めてのことです。

何かネットワーク型の組織ができればいいなと思いますので、研究させてください。

(ご意見に対する対応状況)

民間を含めた関係者から幅広く情報を収集して信州の山のポータルサイトの内容を充実させるなど、信州の山の情報を蓄積し発信してまいりたいと考えます。

【担当課：林務部森林政策課】

3 問合せ先

企画振興部広報県民課県民の声係

電話 026-235-7110

FAX 026-235-7026

E-mail koho@pref.nagano.lg.jp